

洋書輸入協会会報

VOL. 25

NO. 3

(通巻287号) 1991年3月

理事会報告

1月28日(月)

(一) 12月分収支計算・予算対比表

総務委員会での検討にもとづく松井幸雄氏(丸善)
の報告を承認した。

とき 1991年10月18日(金)・19日(土)

ところ 東京古書会館

(二) 新年懇親会

83社234名(史上最高)の参加があったこと、および
その収支報告がなされた。

(六) その他

(三) 賛助会員 ロングマン・ペンギン・ジャパン(株)の件

昨年12月25日付けで、二会社に別れた為、今後下記
のとおり二社で賛助会員に加入したい旨申し込みがあ
り、これを了承した。

2月18日(月)

(一) 1月分収支計算・予算対比表

2月8日(金)の総務委員会での検討にもとづく松井幸
雄氏(丸善)の報告を承認した。

ロングマン・ペンギン・ジャパン(株)

代表者 ジェレミー・オズボーン

ペンギン・ブックス・ジャパン

代表者 バトリック・ライト

(二) 50周年記念事業

協会50周年記念事業として、記念式典・記念講演会・
記念パーティーを中心に計画を進めている旨、50周年
記念事業委員長佐々木大刀夫氏(第一出版貿易)から
報告があった。

(三) その他

(四) 1991年度予算編成の件

各委員会の事業活動計画と予算を2月末日までに事
務局へ提出することが決められた。

(五) 洋書まつり

第23回洋書まつり'91の日時・会場が次のとおり決
まった。

理事会報告	1	会員紹介	5	広告	8
1990年(平成2)年1~12月、 洋書輸入通関統計とその分析(前編)	2	東京の坂と橋と文明開化(12)	6		
海外ニュース	5	海外ニュース	7		
		お知らせ	7		

1990（平成2）年1～12月、洋書輸入通関統計とその分析（前編）

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

大蔵省関税局から、1990（平成2）年1～12月の日本貿易統計が発表されたので、その中の洋書関係の数字をピックアップして表示すると共に、若干の分析を試みたい。

1. 1990年1～12月、書籍・雑誌の輸入通関統計表

（表1）書籍

（単位 百万円）

品 名	'89.1～12月 価 額	'90.1～12月 価 額	前年比	構成比
			%	%
単一シートのもの	320	166	52	0.5
辞典及び事典	673	467	69	1.4
その他のもの	26,188	32,641	125	98.1
計	27,181	33,274	122	100.0

（注1） 書籍とは、「印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物（単一シートのものであるかないかを問わない）」を対象とする。

（注2） 単一シートのもものは、折り畳んであるかないかを問わない。この分類は'88より新設のもの。

（注3） 辞典及び事典には、シリーズの形式で発行するものを含む。この分類は'88より新設のもの。

（注4） 「その他のもの」が、いわゆる一般の書籍である。

（表2）新聞・雑誌その他の定期刊行物

（単位 百万円）

品 名	'89.1～12月 価 額	'90.1～12月 価 額	前年比	構成比
			%	%
一週に4回以上 発行するもの	225	139	62	0.8
新 聞	20	34	170	0.2
雑誌その他の 定期刊行物	13,838	16,793	121	99.0
計	14,083	16,966	120	100.0

（注1） 新聞、雑誌その他の定期刊行物は、挿絵を有するか有しないか、または広告を含んでいるかいない

かを問わない。

（注2） 「一週に4回以上発行するもの」は、'88より新設のもの。新聞ではない。

〔分析〕

新聞の前年比は170%になっているが、価額で3,400万円とは、雑誌その他の定期刊行物の輸入168億円の購読力に比較するとき、いかにも少なすぎる感がある。

（表3）書籍、新聞・雑誌の合計額

（単位 百万円）

品 名	'89.1～12月 価 額	'90.1～12月 価 額	前年比	構成比
		%	%	%
書 籍	27,181	33,274	122	66
新 聞 ・ 雑 誌	14,083	16,966	120	34
計	41,264	50,240	122	100

（注1） 価格はCIF又はC&Fである。

（注2） 小額貨物の20万円以下は含まれていない。

（注3） 書籍は、現品入荷月の翌月の15日までに届出が行われるため、入荷より平均1ヵ月の遅れで計上されている。

（注4） 雑誌は、最終号が到着したと認められる時点において届出が行われるため、初号入荷時よりも約1年遅れで計上されている。

〔分析〕

（1） 成長率と円安との関係

書籍と新聞・雑誌の合計額で、前年比22%成長しているが、これは1974（s49）年の前年比35%アップ以来の大幅なものである。

しかしこの22%の成長のうち、13.4%は円安のためのアップ（表9参照）であるから、実質的には8.6%の成長であると見るべきであろう。

(2) 合計額 500億円の大台に乗る

1989年は、史上初めて400億円台に乗った記念すべき年(表4参照)であったが、'90は早くも500億円台に乗っている。300億円台に乗ったのが77(s52)であったから、それから12年間も300億円台と200億円台の間を上下するという低迷が続いていたことを考えると、目覚ましい発展と言うべく、まさに記念すべき年となった。

ただし、洋書輸入業界の利益率低下、特に雑誌におけるそれが、'89、'90と次第に深刻な様相を呈してきているので、500億円台に乗ったとはいっても「稔りなき繁栄」とでも評すべきであろうか。

(3) Air Cargo 取り寄せの増大

近年、Air Cargo で取り寄せるところが増えている。購読者に、情報を早く求める要望が強くなっている傾向に添ったものであろう。このAir Cargo 取り寄せの増加は、通関手続き不要の20万円以下の小額貨物を減少させて統計洩れを少なくし、また当然のことながら送料を高騰させて、結果的に統計に現われる数字を大きくし、成長率を若干高めていると思われる。

2. 最近10年間の推移一覧

(表4) 1981～'90年書籍、新聞・雑誌輸入通関統計推移表

(単位 百万円)

暦年	書 籍			新聞・雑誌(注)				計			
	価 額	冊 数	指数	価 額	冊 数	指数		価 額	冊 数	指数	
1981	19,071	83	100	9,133	81	100		28,204	82	100	
'82	21,285	112	112	11,259	123	123		32,544	115	115	
'83	20,028	94	105	11,130	99	122		31,158	96	110	
'84	20,874	104	109	11,006	99	121		31,880	102	113	
'85	21,897	105	115	11,087	101	121		32,984	103	117	
'86	18,174	83	95	9,837	89	108		28,011	85	99	
'87	21,461	118	113	12,339	125	135		33,800	121	120	
'88	23,143	108	121	13,591	110	149		36,734	109	130	
'89	27,181	117	143	14,083	104	154		41,264	112	146	
'90	33,274	122	174	16,966	120	186		50,240	122	178	

(注) 1988年から、雑誌に新聞が含まれたため、'87以前の雑誌欄の数字は、すべて新聞含みの数字に訂正している。

3. 貿易統計作製のための米ドル換算表

(表5) 1988～'90年、輸入統計における各月毎米ドル換算表

(単位 円)

月	1988		1989		1990	
	輸 入	前年比 切上率	輸 入	前年比 切上率	輸 入	前年比 切上率
		%		%		%
1月	126.01	20.8	125.64	0.3	144.36	△14.9
2月	128.57	15.8	128.49	0.1	144.93	△12.8
3月	128.72	16.1	128.00	0.6	148.61	△16.1
4月	125.64	14.5	132.12	△5.2	156.99	△18.8
5月	124.76	10.8	133.78	△7.2	157.09	△17.4
6月	125.23	12.2	143.06	△14.2	152.28	△6.4
7月	131.40	11.1	141.60	△7.8	151.95	△7.3
8月	133.12	11.7	140.29	△5.4	148.90	△6.1
9月	134.21	6.2	145.10	△8.1	142.96	1.5
10月	132.58	8.3	142.58	△7.5	133.82	6.1
11月	125.36	9.5	142.67	△13.8	128.31	10.1
12月	122.21	7.9	143.83	△17.7	130.86	9.0

(注) △印は前年同期比切り下げ率

〔解説〕

切り上げ(切り下げ)率算出法

$$\text{切り上げ率} = \frac{\text{前年同期一当年}}{\text{前年同期}} \times 100$$

貿易統計は、税関に提出される輸出入申告書による申告価格を、税関長が毎週に公示する相場により円ベースに換算し、これらを基礎資料として集計されている。

上記の表は、この換算を各月毎にまとめたもの。(外国貿易概況より)

〔分析〕

米ドルが前年同月比で円高に転じたのは、1985(s60)年8月からであるが、以降'89、3月まで44ヵ月間円高が続き、同年4月から'90、8月までの17ヵ月間は円安であった。それが同年9月から再び円高に転じて現在に至っている。

4. 1990年1～12月、主要6ヵ国の輸入通関統計表

〔解説〕

東西ドイツ合併の統計に及ぼす影響

1990年に東西ドイツが合併した。輸入統計上は、1～10月末は東西ドイツそれぞれで計上され、11月1日～12月

末は、東西ドイツの合計額が西ドイツとして計上されている。そのため、1990年の東ドイツの数字は、1～10月の10ヵ月分である。西ドイツは東独の2ヵ月分が加算されているために、前年比の数字がその分だけ成長率が高いという形で表われている。

なお、1991年1～12月のドイツの前年比は、1990年1～12月の東西合計分と比較して算出しなければならない。

(表8) 書籍・新聞・雑誌の合計額

(単位 百万円)

国名	書 籍			新聞・雑誌			計		
	価 額	前比	構成	価 額	前比	構成	価 額	前比	構成
		%	%		%	%		%	%
米	10,880	100	33	6,663	117	39	17,543	106	35
英	8,641	124	26	3,216	109	19	11,857	120	24
西独	4,325	135	13	1,819	137	11	6,144	135	12
仏	2,467	233	7	784	138	5	3,251	200	6
オランダ	1,403	150	4	2,114	127	12	3,517	135	7
スイス	857	129	3	778	146	5	1,635	137	3
小計	28,573	121	86	15,374	120	91	43,947	121	87
その他	4,701	135	14	1,592	121	9	6,293	131	13
計	33,274	122	100	16,966	120	100	50,240	122	100

(表6) 書籍

(単位 百万円)

国 名	単 シート	辞・事典	その他	計	前年比	構成比
					%	%
米	44	137	10,699	10,880	100	33
英	2	216	8,423	8,641	124	26
西 独	43	21	4,261	4,325	135	13
仏	36	14	2,417	2,467	233	7
オランダ	3	4	1,396	1,403	150	4
ス イ ス		1	856	857	129	3
小 計	128	393	28,052	28,573	121	86
そ の 他	38	74	4,589	4,701	135	14
計	166	467	32,641	33,274	122	100

[分析]

書籍・新聞・雑誌ともにヨーロッパ諸国の成長率が高い。その原因の一つは、円安がヨーロッパで異常に大きかったという所にある。(表9)によって(表8)の合計額を実質成長に修正してみると、前年比で米…101%、英…106%、西独…113.2%、仏…177.5%、オランダ…113%、スイス…113.4%となる。

フランスの書籍が前年比233%、新聞・雑誌との計で200%というのは、円安分を差し引いても驚異的な成長率である。個々の新刊書の集計で前年比が2.3倍(14億円の増)になるということは一寸考えられない。なにかの特需があったのだろうか。

5. 主要6ヵ国為替相場の動向

(表9) 1990年1～12月、主要6ヵ国の年間平均為替相場の前年比

(表7) 新聞・雑誌

(単位 百万円)

国 名	週4回 以上	新聞	雑誌	計	前年比	構成比
					%	%
米	62	11	6,590	6,663	117	39
英		10	3,206	3,216	109	19
西 独		2	1,817	1,819	137	11
仏		1	783	784	138	5
オランダ			2,114	2,114	127	12
ス イ ス			778	778	146	5
小 計	62	24	15,288	15,374	120	91
そ の 他	77	10	1,505	1,592	121	9
計	139	34	16,793	16,966	120	100

通 貨	'90 年間平 均為替相場	前 年 比	'90洋書輸入 価額構成比	円安又は円高 の加重平均
	円		%	
US.\$	145.90	5.0%の円安	35	1.8%の円安
Stg.£	262.12	14.0%の "	24	3.4%の "
D.M	90.35	21.8%の "	12	2.6%の "
F.FR	27.03	22.5%の "	6	1.4%の "
D.GL	80.19	22.0%の "	7	1.5%の "
S.FR	105.47	23.6%の "	3	0.7%の "
小 計			87	11.4%の円安
その他の国		推定15%の円安	13	2.0%の "
総 計			100	13.4%の円安

〔分析〕

上記表で見ると（表8）の分析でも述べたが、D.M、F.FR、D.GL、S.FRの諸国の年間平均為替相場前年比で、異常に円安となっている。これ以外のヨーロッパ諸国でも、例えばイタリア20%、スペイン22%、デンマーク24%などと軒並みに大幅円安になっている。この現象は'90の為替相場の動向における特徴といっても良いであろう。

海外ニュース

「VCHがアカデミー社を買収」

ドイツの学術専門書出版社グループVCHは、新春早々

に旧東ドイツの代表的学術総合出版社であったAkademie-Verlagを買収した。このAkademie-Verlagは、1946年に東ドイツの科学アカデミーが主体となって設立した有限責任会社だが、本年1月1日以降はVCHの100%子会社として、Akademie Verlag GmbHという社名で、ベルリンで出版社活動を続けることになった。

Akademie-Verlagは、年に新刊書約200点を出版し、雑誌50点余を発行している。出版内容や組織の変更は検閲中、経営陣にはヴァインハイムのVCH本社から役員が出向するが、旧社の支配人も残る模様。

（Börsenblatt, 1991. No. 2より）

—（株）伊屋書店提供—

会員紹介

Interknowledge Books, Inc.

代表取締役 塚本 正広氏

東京都新宿区高田馬場2-5-21 和田ビル102号

TEL 03(3205)4651

昭和61年6月、代表者塚本氏によって設立された。社名のInterknowledgeのInterはInternationalのInterというよりも、Interface、またはInterdisciplinaryのInterで、またknowledgeは、ただのknowledgeではなく、AIで言うknowledgeだそうで、もともこの方面に関心とウチクのある塚本代表自らの命名。

今さら説明するまでもないが、塚本氏は長年米国Addison-Wesleyの日本代表をされた経験があり、この世界ではすでにベテラン。海外の業界にも知己が多い。

Interknowledgeが代表業務をする出版社は数社あって、主なものには理工系と言えるが、そうでないものの中に異色のものがあって興味深い。

- Houghton Mifflin Co. —テキスト、レファランス、絵本、一般書
- Morgan Kauffmann Pub. Inc.—人工知能、コンピュータ
- W.H. Freeman and Co.—ライフサイエンス、心理学、その他

●VSP (Netherland) —理工系ジャーナル及書籍

これらの中には、コンピュータ専門の有力出版社Computer Science Press (Freemanの子会社)があったり、文学、文芸の一般書で名を知られた英国のVictor Gollancz (最近Houghton Mifflin傘下に入る)があったりで、面白い中味のグループになっている。

なおこの他、RepresentativeでもありExclusive Distributorでもある次の二社（学会）をもっている。

- Instrument Society of America (ISA)
- Iron and Steel Society of AIME (ISS)

ところで、日本でもよく読まれるガブレイスの本を出しているのはHoughton Mifflinであるが、そのHoughton Mifflinより昨年出た絵本、David Macaulayの“Black and white”は、絵本の世界で最高の賞、カルデコット賞（1991年度）を受賞。今年の書店の絵本コーナーを飾る事であろう。

（SSD 野村）

吾妻橋と浅草の文明開化〔4〕 浅草オペラへの道

丸善・本の図書館 鈴木 陽二

前回紹介した『十二階崩壊』の中で今東光は「ペラゴロ」なるものについて触れている。オペラのジゴロをつめた言葉で、簡単にいうと浅草オペラの熱狂的ファンのことを指し、東光自身もその一人であった。彼などは東郷青児と一緒に踊り子のいる楽屋に泊まり込むほどの入れ込みようで、その時の様子を谷崎潤一郎が聞いて「そいつ羨ましいな。俺も楽屋に泊まりたいぐらいだよ。」と羨望に堪えない風だったと語っている。浅草オペラは浅草の庶民娯楽を築いたもう一つの景物であって、日本の大衆文化史、あるいは洋楽史の上で見過ごせない事象であるが、今回はこの浅草オペラに致る日本の揺籃期のオペラ盛衰史を簡単に辿ってみたい。

日本のオペラは明治27年上野奏楽堂で外人によって「ファウスト」が演じられたのに始まり、以降帝劇歌劇の登場まで幾つかの上演が試みられていく。「今日は帝劇、明日は三越」という宣伝文句はこの時代の雰囲気巧みに伝える傑作であるが、その帝劇は明治44年に伊藤博文などの賛助を得、沢村栄一を会長として設立された。帝劇の演目の中心は歌舞伎であったが、歌劇の上演も事業計画に含まれていて柴田（三浦）環主演による「熊野」でそのスタートを切る。本格的な取組みはイタリア人ローシー（R.V. Rossi）の招聘によって始まり、苛酷なものであったという彼の指導のもとで歌劇部（後に洋劇部）に在籍の原信子、清水金太郎、石井漢、沢モリノなどが訓練を受け、大正2年に彼の演出による初めての歌劇モーツァルトの「魔笛」を公演する運びとなる。しかし、その成績からグランドオペラを演ずるほどの力のないことがわかり、以後ローシーは喜歌劇の上演に切り換えるが、いずれにしてもこの当時歌劇を理解できる人は少なく、採算のとれない状況が続く。そのため契約終了の大正5年に帝劇は洋劇部の廃止に踏み切る。

帝劇を去ったローシーは、大正5年赤坂見附にローヤル館という小劇場を設立して歌劇興行の続行に着手した。しかし、ここでも観客は少なく、さんたんたる興行成績の中で歌手も楽士も離散して大正7年には閉鎖に追い込まれるが、この間「天国と地獄」「ボッカチオ」「カバレリア・ルスチカーナ」「椿姫」など多くの演目が原信子や

田谷力三、清水夫妻などによって上演された。

このように、草創期の歌劇は一般への浸透が図れずに消滅してしまうのであるが、この時代に活躍した歌手達はやがて浅草につどって繚乱たる浅草オペラを開花させることになる。さて、浅草で初めてオペラが上演されたのは大正6年の常磐座で、「女軍出征」という創作オペラであった。これが図らずも連日満員の大当たりとなって、この中で歌われた「チツペラリーの唄」「ダブルリンベー」が大評判となり人々の間に広がっていった。ローシーが淋しく日本を去ってから、彼が目指した喜歌劇が、こうして奇しくも浅草で結実する。この辺の様子を『東京百年史』でみると、戸山英二郎（藤原義江）なども加わったスター達がオペラ常設館となった日本館や観音劇場、金龍館などを舞台に活躍し、彼らが歌った「女心の唄」「ボッカチオ」や「ベアトリねえちゃん」などが燎原の火のように口から口へと伝わり歌われていった。ローシーを失意のどん底に落としたあれほどのオペラへの無理解が、一旦浅草で旗揚げするやペラゴロを生むほどの狂瀾に沸き立ったのは浅草の力とでもいえるのであろうか。ともあれ、これほど過熱した浅草オペラも大正9年には金龍館の上演だけとなり、そして、関東大震災を契機に急速に衰退する。大正も半ば頃になると、外国から一流の演奏家や歌劇団が来日して芸術性の高い音楽に接する機会が増加していった。そういう中で浅草オペラの通俗性や興行上の便法、また、流行歌の登場など幾つかの理由がからんで観客の好奇心も薄れ、さしもの浅草オペラも終幕を迎えることになる。

映画にしろ、オペラにしろ、鋭い嗅覚をはたらかして大衆文化を開花させた浅草は、その意図はともあれ西洋先進文化の導入と浸透に貢献し、また日本の近代化創成の役割も担ったといえる。いま、浅草は活性化のために様々な試みがとられ変貌が進んでいる。しかし、「浅草こそは、下町が最後に花を咲かせた場所」（サイデンステッカー）であって、東京の他のどこにも浅草に代わるべき場所の生まれなかったことを考えると、伝統の厚みや深みに根ざした文化の重層性（神山圭介）こそが、浅草の姿であり力であることをつくづくと思う。

『HBJ 社の買収』

書籍の売上高では米国第3位の大出版社で、1919年創立という古い歴史をもつ Harcourt Brace Jovanovich は、このほど映画館のコンツェルン General Cinema Corp との友好的な話し合いにより約14億ドルで買い取られることになった。

General Cinema は、全米に315館の映画館を所有するほか大スーパー店を経営し、年商21億ドル、純益1,130万ドルを挙げている。一方、HBJ は年商約13億ドル(1989年)だが、負債は20億ドル近くになっていた。

両者間の合意は成立したが、今後債権者と株主の同意が得られるかが若干問題である。今春中にはその交渉を終え、この話を成立させたいと General Cinema 側は云っている。

なお、HBJ は傘下の出版社を切り売りせず、全社まるごとキャッシュで買収されることになっており、経営陣、編集陣もそのまま残るとのこと。

(PW. 2月8日号その他より)

Barnes & Noble というインプリントは、もともと参考図書、専門書、美術書、教科書などで知られていたが、1971年に Harper & Row に買収された。この Harper & Row はマードックに買収され、昨年 Collins と合体させられて Harper Collins となったのはご承知のとおりである。

Harper Collins は、もと Barnes & Noble のタイトルである College Outline Series と Everyday Handbooks のシリーズを今後とも継続して出版するが、インプリントは Harper Collins に改めるとのこと。

(PW. 1月25日号他より)

—(株)紀伊國屋書店提供—

おしらせ

株式会社サイテック ブックサービスは下記のとおり移転しました。

新住所： 〒279 千葉県浦安市富士見2-5-16

ローズガーデン107号

Tel. 0473-54-6392

Fax. 0473-54-6395

「B & N のトレードマーク一本に」

Barnes & Noble というトレードマークは、これまで書店 (Barnes & Noble Bookstores) としては BDB Corporation に、出版社 (Barnes & Noble Publishing) としては Harper Collins に属していたが、このほど BDB Corporation が Harper Collins からそのトレードマークを買い取ることによって一本化されることになった。

BDB Corporation は、B. Dalton Bookseller, Barnes & Noble Bookstores, Bookstop, Inc. などの親会社だが、傘下に Barnes & Noble Publishing & Direct Mail を加えるとともに、社名を Barnes & Noble, Inc. に改めてグループ全体を率いることになった。なお、同グループは、これまで Dorset Press というインプリントで、歴史書、学術書、参考図書など約200点を出版してきたが、今後は Barnes & Noble というインプリントで出版活動をさらに拡大する予定である。

次のとおり就任通知がありました。

ハーバーコリンズ ジャパン インク

マネージング・ディレクター

フランク・フォリー 新任

〃 〃

ロナルド・スレスキー 退任

ノーベル化学賞受賞バーグ博士とシンガー博士による最新刊!

『遺伝子とゲノム』 GENES AND GENOMES

著者 Berg, P. and Singer, M.

992 頁 (本文 2 色刷) 700 イラスト (カラー)

ISBN 0-632-02879-3 ペーパー版 1991 定価 10,763 円 (税込)

(Blackwell Scientific Pub.)



個々の遺伝子の解析と操作を可能にした技術 (所謂組換え DNA 技術) は、過去 10 年間にわたり生命科学に革新的な影響を与えてきた。この度 BLACKWELL 社が本書を刊行するのは、大きな意義をもつ、すなわち世界的に著名な二人の分子生物学者 (そのうち一人はこの領域で先駆者的役割を果たした 1980 年ノーベル化学賞受賞者である Berg 教授) の専門的知見と経験を合体させた真の歴史的テキストである。

格調高い本書は、初めに組換え DNA の基本的解明によって得られた発見・意義付け・先見性についての意味について捕えている。分子遺伝学に関する以前の取扱いは異なり、本書は主題の核心に迫りさらに実験上のアプローチを強調している。本書の新しい特徴は、主題の解説を解析の理論性に対して大きく貢献した歴史的な構成をもって行っていることで、それによって読者の理解を助けている。Part I の初めに 1970 年代初期における分子遺伝学の場合を概説し、次いで Part II では遺伝子クローニングの原理・概念および一般的な実施と DNA の性格付と操作に関して述べている。Part III では、新しい実験上模範的な成果を今迄に見られない程深く明快に探究している。真核生物の遺伝子の構造と転写についての変わりつつある展望について明確な認識を学生に与え、学生は真核生物遺伝子の DNA 塩基配列の構成と期限について理解を得て、次いでプログラミングの拡大、確立の高い増幅および以前には比較的安定なものとして遺伝子を捕えていたことが現在では起き得ると認めている再構成についての理解へと導いている。本書の企図するところは、分子レベルでの生命現象の従来には見られなかった動的展望である。

《本書の特徴》学習に当たり平易であるように、諸事項の発見を年代順に配列し理論的に表記。なお、表現には斬新な明快さを加味して前例のない程深部にわたり取扱いがなされている。700 余の二色刷りイラストは学生にとって分子生物学の複雑性も理解するのに、他のテキストよりさらに深部にいきわたるところを調べられるように配慮されている。

『遺伝子操作の原理 第四版』 PRINCIPLES OF GENE MANIPULATION : AN INTRODUCTION TO GENETIC ENGINEERING, 4/E

著者 Old, R.W. and Primrose, S.B.

416 頁 184 イラスト (カラー & 白黒)

ISBN 0-632-02608-1 ペーパー版 1990 定価 6,241 円 (税込) (Blackwell Scientific Pub.)

お問い合わせ
カタログ請求

株式会社

トッパン

〒101 東京都千代田区神田駿河台 1-6

お茶の水スクエア B 館 ☎ 03(3295)3461 (代)

1991 年 2 月 通巻第 287 号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋 1 丁目 21 番 4 号 千代田会館 5 階 20 号室 ☎ 3271-6901 FAX. 3271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田 1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329